

令和5年度 学校運営協議会（第2回）議事録

- 1 日 時 令和5年11月24日（金） 14:15～15:20
- 2 場 所 本校 会議室
- 3 参加者 協議会委員：地域住民、学識経験者等5名
本校教職員：校長、教頭、事務長、首席、教務部主任、生徒指導主事、保健主事

4 内 容

(1) 委員長挨拶

- ・美原高校へは多くの生徒が進学しているが、次年度から募集がないということで、生徒たちの進路選択の大きな課題となっている。すでに入学している生徒たちの3年間の生活等にも非常に関心がある。

(2) 校長挨拶

- ・これから閉校に向かっていくが、まずは今いる生徒のためにとということで、この会議もよろしくお願ひいたします。2学期に入って、中間考査、修学旅行、そして先日は文化祭が無事終了し、今のところ順調に進んでいると考えている。昨日から期末考査2週間前となり、生徒たちも頭の中を勉強モードに切り替えていっているところ。本日は、4月からの本校の取組みと現在の進捗状況について報告させていただき、忌憚のないご意見・アドバイスをいただきたい。また、次年度に向けての課題があれば、併せてお願ひいたします。

(3) 議 事

◆ 閉校に向けた取組みについて

- ・同窓会、後援会、国際交流協議会、PTA、教職員から成る「閉校準備委員会」を組織し、これまで2回会議を行い、本日この後、3回目の会議を開催する。
- ・これまでに決まったことは、閉校の年である令和8年2月の土曜日の夕方に府内の格式あるホテルで同窓会主催の「50周年記念式典を」を執り行うこと、同日の午前中に卒業生対象の「学校見学会」を実施すること、令和8年3月の最後の卒業式に続けて「閉校式」を行うことなど。
- ・「閉校記念誌」については、すでに業者と契約を交わし、同窓会、後援会、国際交流協議会、PTA、教職員から成る「閉校記念誌作成委員会を」を組織し、作成に向けて動き出している。
- ・閉校記念事業の一つとして、11月11日（土）の文化祭の日に、サプライズで芸能人によるイベントを開催し、生徒たちは大変喜んでいた。

◆ 令和5年度 学校教育自己診断の実施について

- ・11月16日（木）に生徒及び教職員が実施。保護者については、本日締切で回答をお願いしている。
- ・生徒、保護者、教員がそれぞれ22項目の質問に回答。「よく当てはまる」「やや当てはまる」「あまり当てはまらない」「全く当てはまらない」の4段階評価。

- ・生徒は1人1台端末を使ってGoogleフォームから回答。教職員もGoogleフォームから回答。保護者に対しては回答用紙を配付して回収。それぞれの本日時点での回収状況は別紙を参照。
- ・集計の結果と分析については、次回の学校運営協議会でご報告させていただく。

◆ 令和5年度 授業アンケートの結果について

- ・第1回目を5月26日(金)、第2回目を10月20日(金)〈1・3年〉、10月17日(火)〈2年〉に、マークシートにより実施。
- ・生徒は、座学と実技科目それぞれで9項目の質問に回答。「4 よくあてはまる」「3 ややあてまる」「2 あまりあてはまらない」「1 まったくあてはまらない」の4段階評価。
- ・授業担当者ごとに、授業に対する生徒の取組・評価・意識を問う9観点で評価。

<年度別の比較データについて>

- ・1年生では、ほぼすべての項目で前年度よりも数値が高くなっている。
- ・2年生は、前年度、またそれ以前のデータと比べても、ほとんどの項目で数値が下がっている。1年生であった昨年度のデータを見ても、この学年は厳しめに評価する傾向がある。
- ・3年生は、前年度より低い数値となっているが、ほとんどの項目で4点中3.5ポイントを超える高い数値となっている。
- ・全学年トータルで前年度と比較すると、やや下がってはいるものの、3.5前後の高い数値を維持している。ただ、「授業に関する生徒の意識」の項目は、他の項目と比べて低くなっている。生徒の意識を高めることに、どの教科も苦戦していることが窺える。

<教科別比較データについて>

- ・2回目が1回目よりも数値が下がっている教科が多い。1学期よりも学習内容が複雑になることもあり、毎年2回目の方が低くなる傾向がある。
- ・理科については、1回目よりも2回目の方が高くなっている。2学期は実験が多かったことが数値の上昇につながったと考えられる。
- ・芸術、情報、専門体育等、実技教科が非常に高い数値となっている。生徒たちが実技の授業をより好んでいることが窺える。

<学年別比較データについて>

- ・3年生の数値が高い。3年間を通して先生と生徒の関係が築かれ、生徒は先生の授業に馴染み、先生も生徒の特性が分かって、授業を展開しやすくなった結果だと思われる。

<より詳細な結果分析について>

- ・現在、各教科でより詳細な分析を進めており、その結果を第3回学校運営協議会でご報告させていただく。

□ 協議委員からの意見

- ・「年度別比較データ」の表と「学年別比較データ」の表で、3年生の学年平均の数値が違っている。
⇒データを再度精査し、第3回学校運営協議会で修正・報告させていただく。
- ・1回目より2回目の方が下がっているとの報告があったが、3.5を超えるような非常に高い数値なので、悲観する必要はまったくない。生徒たちはきちんと授業を受けていることが窺える。授業が分かる・分からないということ以外の部分に目を向けてくれている生徒が多いということの現れ。ぜひこのまま続けていただきたい。

◆ 令和6年度 使用教科書選定について

- ・内容及び学習についてそれぞれ5つの観点に基づいて、各教科で来年度使用する教科書を選び、教頭・教務主任・各教科主任等で構成する調査委員会において検討し決定した。それぞれの教科書の選定理由については資料をご覧ください。総じて言うと、見やすい、理解しやすい、図が多いなど、生徒がより興味を持ちやすい、内容が生徒たちに適しているという観点で選んでいる。

◆ 各分掌より

<教務部>

- ・今年度、教務部主催の校内研修を4回実施。
- ・第1回は、9月4日（月）に実施。教務研究会他府県（広島県）研修の報告と、1人1台端末（クロームブック）を用いた小テストの作成と成績処理について。
- ・第2回は、10月12日（木）に実施。観点別学習状況の評価において「主体的に学習に取り組む態度」を評価する上での留意事項と評価方法の具体例を紹介し、2学期の成績評価について、「主体的に学習に取り組む態度」の評価基準を作成。
- ・第3回は11月17日（金）に実施。内容は、デジタル採点の手順及び留意事項等について。
- ・第4回は、12月6日（水）に実施予定。11月～12月に教科の枠を越えて実施した授業見学を踏まえ、班に分かれて研究協議。もう一つは、10月の研修で作成した評価基準で実際に評価を試みてどうであったかを教科内で共有して協議。

<生活指導部>

- ・懲戒件数については、昨年度は増加傾向にあったが、今年度はここまで昨年度の半分程度の件数となっている。
- ・昨年度は、2学期に学校生活への慣れから違反行為が増えたが、今年度は1学期に人間関係のトラブルからの行き過ぎた行為で懲戒を受ける生徒が見られた。人間関係の構築の仕方についての指導、クラス運営の中での人間関係トレーニング等の取組みを実施している。
- ・遅刻、欠席については、今年度は1年生で増加傾向が見られる。指導内容を見てみると、寝坊が多いというわけではなく、不登校傾向の生徒が増えていることから、学校へ行くのが困難であり、気持ちを整理して落ち着いてから登校するといったケースが増えている。また、コロナ禍の影響で、腹痛や軽い頭痛でも登校を控え、治ってから登校するという生徒が非常に多い。ウィズコロナの時代に移行したということもあり、ちょっとした体調不良で簡単に休んでしまう生徒をどう指導するかということが課題になっている。
- ・いじめについての指導を初期の段階から状況に応じて柔軟に行えるよう内規の見直しを行った。
- ・昼休みに音楽を流したいという生徒会執行部からの要望を受け、今月よりリクエストを募って試行している。
- ・7月の教職員研修で校則の見直しについて協議した結果、昨今の気象も鑑みて、来年度より夏服・冬服の着用期間を緩和する。

<進路指導部>

- ・四年制大学については、指定校推薦を中心に22名の生徒が進学を決めている。
- ・短期大学については、指定校推薦、統合型選抜で4名の生徒の進学が決まっている。
- ・専門学校については、指定校推薦、AO入試で29名の生徒の進学が決まっている。近年難関であった看護専門学校へも数名が合格したとの報告を受けている。

- ・進学を希望する生徒の割合は昨年度より減少している。金銭面で就職を希望する、進学できるがやりたいことがないので就職するという生徒が例年より多い印象。
- ・今年度は、全体的に専門学校のアO入試へのエントリーの動き出しが遅かった。その理由について今後分析が必要。
- ・就職については、コロナ禍が明け、企業の採用活動が活発化している中、一次内定率が昨年度よりも減少している。一次で内定が取れなかった生徒については、進路変更で進学から就職に変わった生徒も併せて二次選考以降に向けた指導を継続し、ほとんどが就職を決め、本日時点で2名だけが結果待ちをしている状況。
- ・一次内定率が下がった原因を進路指導部で分析したが、一つ言えることは、一次で不合格となった生徒が受けた企業の多くが学科試験を実施していたということ。また、合格した生徒についても、面接の受け答えが非常によかったのが合格としたが、学力は水準に達していないと言われるケースがあった。就職試験に合格するという点からも、基礎学力の充実が極めて重要であるということが明らか。その点について、10月の校内研修で進路指導部長より報告があり、全教員が喫緊の課題として共有している。現在、将来構想委員会において、基礎学力充実のための新たな取り組みについて検討を進めているところ。

<保健部>

- ・各種検診は予定通り実施できている。
- ・冬休みに陸上部が合宿に行くので、合宿前検診を予定している。
- ・歯科検診の結果、虫歯が多かった生徒を毎月昼休みに呼び出して受診を勧めている。重症になってもなかなか受診しない生徒もいる。
- ・眼科検診、耳鼻科検診は昨年度より実施しているが、2年目の今年度は順調に行えている。
- ・熱中症予防講習会は、体育大会前に全生徒を対象に、啓発用資料の配付や動画を使った解説を行った。
- ・避難訓練は、例年6月に地震、11月に火災を想定した訓練を行っている。今年度は、6月に自衛隊の方を講師に招き、Jアラートについての説明や、学校にあるもので担架を作る実演をしていただいた。
- ・10月31日(火)に、3年生の保健委員が学校薬剤師といっしょに環境衛生検査の体験を行った。
- ・インフルエンザの流行により、文化祭前に3年生の1クラスが学級閉鎖、その後3年生が学年閉鎖となった。
- ・生徒数は年々減少しているが、保健室の来室者数は増えている。今年は、夏休み明けの来室が特に多かった。1年生でも夏休み明けに原因が分からないまま急に学校に来られなくなる生徒がいた。朝起きられなくて遅刻してそのまま保健室に来る生徒もいた。教室に上がることができず保健室で休む生徒が多いことが気になる。

□ 協議委員からの意見

- ・閉校が決まってモチベーションが下がることで、アンケートの数値が悪くなるのではないかと考えていたが、この大変よい結果を見ると、生徒たちは閉校が決まったことから心理的影響を受けず、何らかの目標や目的をもって生活できているのではないかと思った。これからも、決して気をゆるめることなく、最後の学年まで進路面でいい結果が残せるよう導いてやっていただきたい。
- ・保健室に同じ生徒がよく来るということであったが、どういう理由で来ているのか。

- ⇒内科・外科的なものよりは、心がしんどい生徒が多い。SCやSSWにつなぐこともあるが、SCとの面談の日にも休んでしまう。保健室でゆっくり話を聞いてやりたいが、授業にも出させないと欠課時数が増えてしまう。
- ・そういう生徒に対して、地域や行政で何かできることはあるか。

⇒家庭環境がしんどい生徒もいるので、卒業後も自分で相談に行けてバックアップしてもらえ場所があるといい。

⇒現在も美原区の担当の方と連携しているケースは多い。美原区の方が頻繁に家庭訪問をしてくださり、学校にも連絡をいただいている。他の市と比べても美原区はよく対応してくださっている。今は学校がつなぎの役割を果たしているが、卒業した後も相談窓口がここだと分かる掲示やアナウンスを増やしてもらえるとありがたい。
 - ・SSWの来校回数は十分足りているか。

⇒最近も府でもその点に力を入れており、本校については不足はない。
 - ・教務部主催の校内研修について、「学校全体で組織的かつ計画的に評価基準及び評価方法について検討し」とあるが、どういう評価基準でどういう計画をされているのか詳しく教えてほしい。

⇒観点別学習状況評価については、令和4年度の1年生から始まり、今年度は1・2年生で実施している。「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点について、それぞれA・B・Cの3段階で評価する。「主体的に学習に取り組む態度」については、テストの点数ではなく、授業中の生徒の取組みを見たり、振り返りをさせてその内容を讀んだりして評価するので、何をもってAとし、何をもってBとするのかという評価の軸をしっかりと持っていないといけない。観点別学習状況評価をする科目が年次進行で増えていっているため、新しい評価の軸を定めたり、新しい評価の材料を設定したりということを各教科で行っている。「指導と評価の一体化」により、授業の改善を進めるとともに、評価の妥当性・信頼性を高めていきたい。
 - ・会社においては、一人一人の社員に得手不得手があるので、見たり話をするだけでなく、それぞれの社員の優秀なところ、努力が必要なところを書いたものを渡している。もらった本人は、自分はこういうところをがんばらないといけないということが具体的にわかる。学校においても、できるだけ具体的な評価をし、それをどう伝達するかということを考えてほしい。
 - ・遅刻が多くなった理由には生徒の心の問題があるということだが、閉校が決まっているのだとしても、生徒に寄り添って、最終的にこの高校を卒業してよかったなと思ってもらうこと、そしてしっかり勉強してもらうことが大事。民間で何かできることがあれば言っていたきたい。
 - ・アンケートでの授業評価の数値が高いわりには基礎学力が追い付いていないという点に矛盾を感じるため、それがなぜなのかということも考えていただきたい。
 - ・「主体的に学習に取り組む態度」については、主観が入ってしまうので、抜きこんでいる場合にはAやCをつけやすいけれども、Bがふくらんでしまうのではないかと思う。5段階評価になおしたときに5や1は本当に数が絞られるのではないか。

⇒観点別学習状況評価になると、成績の中心化傾向が起これ、真ん中ぐらゐの生徒の数が増えるということは他の学校からも聞いている。
 - ・大学としては、指定校推薦などの場合の評定平均への影響が気になっている。
 - ・閉校へ向けた取組みの話の中で具体的な日程が出てくると、本当に閉校になるんだなと寂しい思いがする。今いる生徒が笑顔で過ごせるようにしてやってほしい。

- ・美原高校では、生徒一人一人の様子を見て、横に来てわかるように教えてくれる。
- ・家庭環境が厳しい生徒は、それが当然だと思って育っていて、相談が必要な状況にあるのをあまり分かっていない幼さがある。そういう子に気付いてあげて、相談を受けられるよう導いてやってほしい。
- ・美原高校の学校運営協議委員になって5年目。毎年、授業を見学させていただくと、生徒たちが本当に前向きに取り組んでいる。たくさんの卒業生がお世話になっているが、いいなという印象をいつも持っている。生徒のアンケートの結果を見ても数値が非常に高い。閉校が決まって、今年は3学年あるが、来年から1学年ずつ減っていく。今の1年生が3年後に卒業するまで、規模が縮小することによるデメリットに対応していただいて、生徒たちが色々な活動を気持ちよくやっていけるようお願いしたい。閉校記念事業の予算があると思うので、そういったものも活かして生徒たちの学校生活を支援してやってほしい。

4. 閉会の挨拶（校長）

- ・学習指導要領が変わって、昔のように先生が一方向的に教えてノートを取るという授業ではなくて、生徒が自らアウトプットして表現し、それによって内容を深く理解するという授業に移行していている。本校においても、そのような授業に対応していこうと、教務部長が中心となって取り組んでいる。学校は閉校になることが決まっているが、教員はまた今後色々ところで活躍してもらわないといけないので、先生方もしっかりと将来に向けて前向きにがんばっていただきたい。生徒たちに関しては、子どもたちが本当に笑顔で卒業していってもらえるよう、美原高校に来てしっかりと力もついたり、充実した高校生活を送れたと言ってもらえるようしっかりと取り組んでまいります。今後ともよろしく願いいたします。

※第3回は2月中旬を予定。